R. S. C. D. S.

東京ブランチレター

NO. 45

東京ブランチ合宿のお知らせ

前号でお知らせした2月の合宿の日にちが3月に変更になり、ティーチャーに Dereck Haynes ご夫妻をお呼びすることになりました。詳細は次号でお知らせいたしますが、日にちの変更に注意をしてこの日を予定にいれておいてください。

日時: 2000年 3月19日(日)ー20日(月・祝)
会場: 石川島研修センター
講師: Mr and Mrs Dereck Haynes

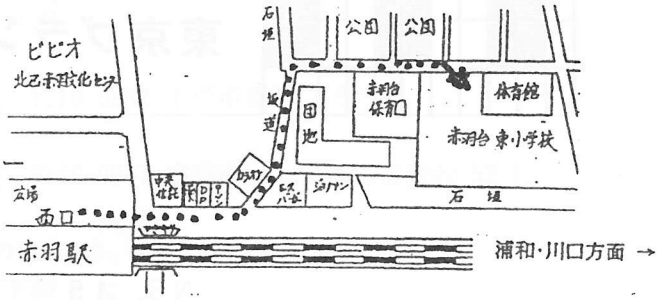
＜ デレック ヘインズ夫妻について ＞

デレック ヘインズ氏は40年以上にわたり熱心な Scottish Country Danceのティーチャーとして活躍している。彼は自分の地域のレギュラー クラスで教えるだけでなく、イギリス国内はもちろんのことヨーロッパ各地、アメリカ、カナダ、オーストラリアにも招かれて指導している。セント アンドルーズのサマースクールでもカントリーダンスとメンズ ハイランドダンスを教えている。また、ダンスの作者としてもよく知られており、RSCDSのBookの中では Neidpath Castle(Book 22), The Clansman (Book 32), Miss Gibson's Strathspey (Leaflet) がある。その他 The Blackmountain Reel, MacDonald of the Isles, Ray Milbourne等々有名なダンスはたくさんある。

夫人のモーリーンは35年以上も熱心に踊り続けており、現在はチルドレンズ クラス、ビギナー クラス、また一般クラスでも教えている。

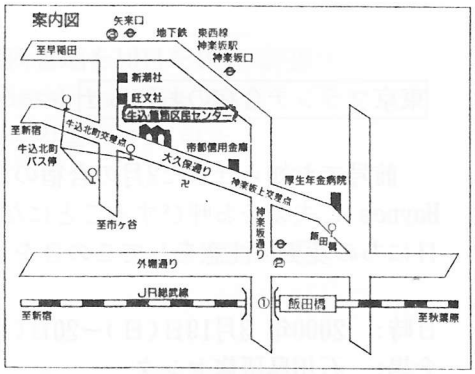
Book 40 講習会

日時:　9月23日(木・祝) 1:00～5:00p.m.
　　12:00受付開始
会場:　赤羽台東小学校体育館
講師:　サマースクール参加のティーチャー
会費:　1,000円 (非会員 1,100円)



東京ブランチ創立15周年記念パーティ

日時:　11月7日(日) 12:00～5:00p.m.
　　11:00受付開始
会場:　牛込箪笥区民ホール
会費:　1,500円 (非会員 1,600円)
Mr Calum MacKinnon & Ms Lisa Sharp
の演奏及びミュージック クラスの演奏



(交通機関) ①J R 総武線 飯田橋駅西口下車徒歩15分
②地下鉄有楽町・南北線 飯田橋駅下車B3出口徒歩15分
③地下鉄東西線 神楽坂駅下車徒歩10分
●都バス 飯田橋から新宿車庫行 牛込北町下車
新宿駅西口から飯田橋・秋葉原東口行 牛込北町下車

ミュージック クラス
11/6 1:00～5:00p.m.すみだ生涯学習センター
11/7 9:30～11:30a.m.牛込箪笥区民ホール
(申し込み者には直接案内をお送りします。)

パーティーの曲目 (予定曲 順不同)

Reel

The Deil Amang The Tailors	(3C-32)	BK 14
Red House	(2C-40)	BK 7
The College Hornpipe	(3C-32)	BK 20
Anniversary Reel	(4C-32)	BK 36
Fisherman's Reel	(5C-32)	
Maxwell's Rant	(3C-32)	BK 18
The Reel Of The Royal Scots	(3C-32)	Leaflet
The Eightsome Reel	(SQ-464)	BK 2
Jessie's Hornpipe	(3C-32)	BK 8

Jig

The Gilly Flower	(3C-32)	BK 36
Miss Allie Anderson	(3C-32)	Leaflet
Follow Me Home	(3C-32)	BK 38
The Wild Geese	(3C-32)	BK 24

Waverley or Fergus McIver	(3C-48)	BK 15
Quarries' Jig	(3C-32)	BK 36
Gothenburg's Welcome	(3C-32)	BK 37

Strathspey

Fair Donald	(3C-32)	BK 29
The Royal Wedding	(3C-32)	1982 Leaflet
The White Rose Of Scotland	(3C-32)	
The Glasgow Highlanders	(2C-32)	BK 2
The Braes Of Breadalbane	(3C-32)	BK 21
Moment Of Truth	(3C-32)	BK 37
The Sauchie Haugh	(2C-32)	Leaflet
Cape Town Wedding	(3C-32)	BK 39

10月のブランチ クラス

日時: 10月2日(土) ステップダンス 5:00～6:00p.m. S.C.D. 6:20～8:40p.m.
会場: 二階堂ハース スポーツと芸術ホール (京王線 明大前下車)

ビギナーズ クラス

日時と会場: 9月19日(日) 1:00～5:00p.m. 港区生涯学習センター
10月9日(土) 1:00～5:00p.m. 神田さくら館

2000年の東京ブランチ主催の試験

* 2000年5月3日～14日の期間に本部よりExaminerを派遣する旨承認された。
* Candidatesの申し出締め切り
  ブランチ レター42号(99/3/20)でお知らせしたように、受験希望者の申し出は10月末日で締め切ります。(希望者はセクレタリまで)

ショップのお知らせ

* James Cosh "Twenty-Two Scottish Country Dances" 50冊 1冊 850円
* 東京ブランチ 創立10周年記念誌 "10th Anniversary Collection"
  70冊 1冊 300円

注文先: 渡辺 悦子
住所: 〒350-0222 坂戸市清水町 18-11
TEL & FAX: 0492-81-6427

☆ 手紙かFAXで申し込んでください。 先着順です。

今年の夏はことのほか暑い日が続きましたが、R.S.C.D.S.のサマースクールが毎年開かれているセント•アンドルーズは、日本とは反対に今年はいつもより曇りがちで寒い日が多くカーディガン1枚では間に合わないほどでした。日本からのサマースクール参加者も昨年に引き続き30名近くにのぼり、ヤンガーホールのデモンストレーションでもカントリーダンスでは荒井さん(8/5)、有田さん(8/12)、ハイランドダンスでは有田さん、金子さん、レディスステップダンスでは五十嵐さん、境さんが出演なさってとても見事に踊られました。プレリミナリー•テストでは堀澄子さん、小沢明子さん、鈴木幸子さんが合格なさいました。またカナダでも8/15 - 21までサマースクールが開かれ、日本からは8名ほどが参加しました。

サマースクールに関して東京ブランチ チェアマンの松橋さんからの寄稿原稿があり、またスコットランドのサマースクールに参加したお二人(デモンストレーションに出られた荒井さんとプレリミナリー•テストに合格なさった堀さん)とカナダのサマースクールに出席なさった神倉さんにそれぞれのサマースクルの様子を書いていただきました。

“サマース•スクールを想う” -- それはR.S.C.D.Sの結晶されたもの --

松橋順子

昨年に続き今年のサマースクールも日本から20名を越す会員が参加した。またセントアンドルーズばかりでなく、カナダやニュージーランドのサマースクールへも行くようになってきたことは本当にうれしいことだ。私自身は1976年初参加以来、1988年からは毎夏参加していたが•••今年は暑い日本でジーッと我慢の子をしていた私に "Best Wishes from Summer School to Junko" の書き出しでteachers classのクラスメート14人のサイン入りの絵ハガキが届いた。"? !"--そうなのだ。数年前 "You are a regular member now" と言われたけれど、いつも来る人が来ないとこういうこともするものだナ•••何ともいえぬ暖かいもの、そしてうれしさがこみあげてきた。

サマースクールに参加すると

* 国籍の区別なくR.S.C.D.S.の会員である••••と実感する。
* クラスや食卓につく時など日本人であるとか、フランスの人、ドイツの人等と意識する機会は多々あるが、Scottish Dancerであるということで皆同じになれる不思議さを実感する。
* スタッフのみならず、メンバー達の初参加者に対する心くばりが行き届いていることを実感する。
* 運営の為に必要なサーヴィス(奉仕)のシステムが徹底していて、それぞれの持ち場との連携がスムースになされていることがよく解る。---等々、参加してよかったという想いと、R.S.C.D.S.の会員が本当に各国に居てダンスを通して一体となれることを実感するのだ。加えて、その出会いからXmas Cardのやりとりをすることにでもなれば、外国に友達をもつ•••という、自分がteen-agerの時には考えもしなかった拡がりのある人生のページが出来る。

---創始者Miss Milliganの言葉 ---池間博之著『英国の民族舞踊』(不味堂) より

「私達の運動はScotlandのダンスを愛好する人々の善意の上に成り立っている。本部が全会員の象徴であるサマースクールの運営を経費の面で最大の善意を表現することは 当然である。もし余裕のある人は善意のご寄付をいただければ幸である。」 さらに Milliganは続けて「このサマースクールの善意に対して是非ともあなた方は善意に答えて欲しい。その善意はあなた方の住んでいる国、地域のダンスの好きな人達にスコットランドのダンスの楽しさをわかち与えてあげることです。」

各国から集まり(ナショナリティーの集まり)、ダンスを通して交流(インターナショナルに)している。これこそがR.S.C.D.S.の理念が結実実行されている場所なのだといえる。だからこそ私は日本の会員の皆さんにそれを実感して欲しくて、サマースクールに行くことを心からお勧めするのだ。「サマースクールに行こう」と決めた瞬間から暮らし振りは変わって来る。心掛けることが昨日までとは違うはずだ。

1978年8月、Miss Milliganはその生涯を閉じられたが、以来その理念は20年を経た今も着実に受け継がれている。東京ブランチを運営するスピリットもそうでありたい。出来る限り実践出来るよう心掛けたいと思う。

"初めての経験はすばらしい経験"

荒井 千文

8月3日(火)、サマースクール2日目の昼食時に、にこやかな笑顔でディレクターのエルマが近寄ってきた。「何だろう?」 言葉のよくわからない私にも、デモンストレーションに出る話ということは理解できた。何と答えていいのかわからなくて一瞬息をのんだ。その日の練習時間までにはあと40分しかない。練習会場が遠いので、昼食もそこそこに出掛ける準備をした。

本番は8月5日(木)のヤンガーホール。練習は8/3, 8/4, 8/5の3日間、時間はだいたい2:00p.m.~3:00p.m.の40 ~ 50分だった。デモの曲はBook 40の12 COATES CRESCENT (S-4C 32)とEH3 7AF(J-3C-32)の2曲、2曲とも1st coupleからのスタートととなる。

とにかくビッグセット。日本ではかなり背の高い私でも、acrossはステップが届くかどうか心配、sideは隣のダンサーと手がとれるかどうか心配というほどのセットの大きさで、常にロングステップが要求される。STRATHSPEYはまだしも、JIGはステップを踏んでいるというよりは空中を飛び廻っているという感じがする。フレージングは確認だけ、カヴァリングは一度通して踊った後で注意個所が指摘され、これを確認した後また踊るということを繰り返した。そして『常に笑顔を!』と強調される。とにかくスマイル、スマイル。私が勝手に思うに、メンバー8人のうち大半がデモの経験者らしく大変落ち着いているように見える。パートナーは私の子供と同年齢位かな••• そのパートナーに唯ひたすら合わせることに懸命な私。8人の中で私が一番のチビ。視線、手を取る位置がいつもと違って高い、自分ではかなり高く感じた。(小柄な人の気持がよくわかった。)

8月5日(木) 8:15p.m.ヤンガーホール集合。着替えをすませ、一度ウォークスルー、そして本番。ドキドキする暇はなし。状況がよく飲み込めないうちにアナウンスがあり、す

ごい拍手の中パートナーに促されフロアの中央へ。一曲目のSTRATHPEY、踊り終わる。次はJIG、間合いの長いこと(私にはそう思えた。) その間の拍手、自分が自分でなくなるような感覚にとらわれた。そしてすべてが終わり拍手の中退場、夢の中の出来事のようでもあり現実でもあり••• STRATHSPEYで少しとちってしまったが楽しく踊れた、いえ踊らせてもらったことが一番うれしく、何とも幸せな気分。

サマースクールでしか出会えないメンバーとこのように踊れたことは、私にとって何よりも素晴らしい経験をさせていただいたととても感謝している。また出発前から大変気がかりだった左膝がよくまあ持堪えたものだと、どなたかの受け売りになるが、自分で自分を褒めてあげたい気持ちである。

「プレリミナリ　テストを受けて」

堀　澄子

セント・アンドリュースでのサマースクールから帰って、1週間も経たないうちにポストに本部からの手紙が届いた。恐る恐る中をチラッと見ると、×ばかりだった。ああ、やっぱり落ちたかと思いつつ、家の中に入ってよく見るとパスの方の×でした。(日本とはチェックの仕方が違うのだ。)

私にとってプレリミナリ・テストのトレーニングコース受講は突然の事で余り勉強もしないで、またプレリーム・テストに付いての情報も知らず、ただトレーニングコースでの勉強を目的にして、その先にテストが有るのだという認識で行ってしまった。これが大変甘かった。その上、体力の無い私でしたから本当にハードな2週間でした。

セオリーやダンシングに付いては余裕が有ったが、つたない英語のヒヤリングと、ダンサーを音楽と共にティーチングしていく事は余り経験のない私には難しかった。特に、”レディ‥アンド”とダンサーをエンカレッヂし、ドライブさせていくコーチングの難しさ、大切さを実感しました。

チューターはホールご夫妻で、とても親切にしていただきました。ミセス・ホールにはレッスンが終わった後もスペシャルレッスンをして下さり、大変お世話になりました。
お二人は素晴らしいミュージシャンでスコティッシュダンスと音楽は並び立つものであって、一方が上で一方が下というものではないことを肌で感じることが出来ました。
テストの前になってようやく要領も判ってきて、この時点でトレーニングコースに入れば楽だったと思いました。

とにかく、ホール先生ご夫妻、クラスメート、他の先生方や、いろいろな人達の暖かい励ましで、やり通す事が出来たことを深く感謝しております。
最後に、「やって見なさいよ」といって、私の背中を押して推薦して下さり貴重な体験の機会を与えてくださった五十嵐先生ありがとうございました。

ＴＡＣサマー・スクールに参加して

神倉　那智子

８月15日の日曜日、夜７時30分のオリエンテーションからＴＡＣサマー・スクールの１週間がスタートする。受け付けで、名簿、スケジュール表、名札、クラス名が記されたファイルを受けとる。クラスはLOCH NESS, LOCH FYNE, LOCH LOMOND の３つで、３人のティーチャーとミュージシャンが２日ずつ担当する。週末だけの30人とスタッフ５人を入れて約160 人が今回のスクール参加者である。

月曜日９時30分、クラスが始まる。LOCH LOMOND の初めのティーチャーはスコットランドから迎えたALLISON RUSSELL 、エネルギッシュに“Are you with me?”とジムに集まった受講生50人をグイグイ引っ張っていく。BOOK 40 のNice to See You を含めて４曲の指導を受ける。12時半までがアッと言う間に過ぎた。２日目の8000 Miles From Home(leaflet Ayr)は時間がなく通して踊れなかったが、是非、また踊りたい曲である。

水曜日、LOCH FYNE とLOCH LOMOND は共にジムへ、のボードのメモに従って体育館に移動する。中２日は70名もの大所帯で、引き続き　ALLISON からレッスンを受ける。小幡さんが20年前に作られたMrs. McDouall Grant が紹介される。DiagonalのReel of Three で多少時間がかかったが、無事仕上がって“Thank you for such a nice dance”の大きな拍手が沸いた。

パーティーは８時からの２時間で全曲ウォーク・スルーがある。火曜日の夜はAlter Ego Dance と呼ばれる仮装舞踏会。それぞれに工夫を凝らした服装でジムにくり出し、ダンスの前に音楽に合わせて行進する。盲目のこじき、掃除婦、ベビードール、ピノキオなどがいる。中でも人目を引いたのはフレンチカンカンの２人組。スカートを持ち上げて陽気に踊りまくる。審査の結果、メイキャップ、アイデア、コスチューム部門の優勝者に参加者の寄付金による賞品が与えられた。

火曜日の夕食時、スタッフの一人、Rechard より、今夜のパーティーで１曲ブリーフをと、頼まれる。プログラムの１番にFLOWERS OF EDINBURGHがある。パーティー開始までほとんど時間がなかったが、これやりますと引き受ける。食後、BOOK SHOP に走って、ルームメイトとBOOK１-6を立ち読みし英文を確認する。司会者がセットを整えた後、私の出番、簡単にあいさつをして、“ウォーク・スルー必要ですか”と聞いてみる。元気よく前列の１人が手をあげる。これまでのように１組歩く方式で進める。終わったとき、Rechard より“WELL DONE,　次のダンスを踊りましょう”と誘われる。貴重な機会を与えられたことに感謝しながらThe Laird of Milton's Daughterを踊る。気品ある英国紳士風の彼の踊りは優雅で、笑顔がさらにセット全体の雰囲気を高める。

宿舎のあるWATERLOOはトロント空港から車で１時間の街はずれにある。キャンパスは広々として、なだらかな丘に緑の芝生がどこまでも続く。時おり可愛い姿を見せるリスと遊び、川のあひるに話しかけ、明るい太陽のもとで微笑む花々を愛でながらの会場通いの道程は、都会の雑踏を忘れさせる。

1992年、スコットランドで心からの親切に感動するできごとがあったが、カナダでも同様な経験をした。最後の夜を、ホールで飲んだり、歌ったりしていた人たちが、５時頃それぞれの部屋へ引き上げた。まだ残っていた３人が、“あなた達が発つまで、あと１時間お喋りしましょう”と、お茶の用意をして下さった。そこに“６時に発つLadiesを見送りたい”と１人の紳士が現れる。同席の女性は、どうしてそれを知っているのかいぶかる。“よく知っていますよ”と彼。それもそのはず、私が、タクシー会社の電話番号を尋ねたとき、親切にも車の手配をして下さった方だから。でもまさかこんな早朝に起きてきて私たちの荷物運搬を手伝って頂けるとは。カナダの生活様式はアメリカナイズされているが、心はヨーロッパのもの。是非またＴＡＣサマー・スクールで踊りたい。

東京ブランチ会報16号記載の住所録の訂正

No. 69　海老沢京子　住所・TEL番号変更　〒310-0802 水戸市棚町 1-5-3
029-232-0789 T+F
No. 110 小沼 和子　住所・TEL番号変更　〒240-0067 横浜市保土ケ谷区常盤台 52-15
045-341-8082
No. 150 北村 重臣　T+F番号記載のものはTのみ。追加 07619-2-3806 T+F
No. 244 佐野 美知　住所訂正　長岡市下柳 2-12-28
No. 321 津本うた子　名前に"子"を加える
No. 429 林　のり子　電話局番を0429に訂正
No. 488 山本 春樹　名前の"春"を"晴"に訂正　住所番地を1011を101に訂正
最後 Mrs Atsuko Clement　住所 DumfriesをDumfriesshireに訂正
T+Fの+41を+44(イギリスの国番号)に訂正

RSCDS 東京ブランチレター No.45 1999. 9. 10 発行
編集責任者　林　浩子
〒188-0014　田無市芝久保町 3-23-19
TEL&FAX.(0424)61- 7386
発　行　ＲＳＣＤＳ東京ブランチ
〒300-0841 土浦市中 1319-11
吉沢　敦子
TEL&FAX 0298-41-0767